



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年  
No.12  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 副作用の発現



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者は医療機関Aを受診して带状疱疹と診断され、バラシクロビルが処方された。薬局の薬剤師が患者のお薬手帳を確認したところ、医療機関Bからオルミエント錠4mgが処方され、服用していることがわかった。オルミエント錠の添付文書には、ヘルペスウイルスを含むウイルスの再活性化（带状疱疹等）が報告されていること、症状の発現が認められた場合には、患者に受診するよう説明し、本剤の投与を中断し速やかに適切な処置を行うことが記載されている。オルミエント錠4mgを処方した医療機関Bの医師に連絡し、患者に医療機関Aからバラシクロビルが処方されたことを伝えたと、バラシクロビルの服用が終わるまで、オルミエント錠4mgの服用を中止することになった。

#### 【推定される要因】

患者は、オルミエント錠の服用により、带状疱疹を発症する可能性があること、症状が認められた際は服用を中止することなどについて理解していなかった。オルミエント錠を処方した医師や調剤した薬剤師から説明を受けていなかった可能性がある。

#### 【薬局での取り組み】

带状疱疹の治療薬が処方された際は、併用薬を確認し、患者が治療を受けている全ての疾患・病態について確認する。



### その他の情報

#### オルミエント錠4mg/2mg/1mgの添付文書 2024年8月改訂（第10版）（一部抜粋）

##### 8.重要な基本的注意（効能共通）

8.4 ヘルペスウイルスを含むウイルスの再活性化（带状疱疹等）が報告されている。また、日本人関節リウマチ患者で認められた重篤な感染症のうち多くが重篤な带状疱疹であったこと、播種性带状疱疹も認められていることから、ヘルペスウイルス等の再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。徴候や症状の発現が認められた場合には、患者に受診するよう説明し、本剤の投与を中断し速やかに適切な処置を行うこと。また、ヘルペスウイルス以外のウイルスの再活性化にも注意すること。



### 事例のポイント

- 带状疱疹と診断されバラシクロビルが処方された患者のお薬手帳を確認した際、他の医療機関からオルミエント錠4mgが処方されていることを発見した薬剤師が、オルミエント錠によるヘルペスウイルスの再活性化の可能性を疑い、オルミエント錠4mgを処方している医師に情報提供を行った事例である。
- オルミエント錠は、免疫反応に関与するヤヌスキナーゼ（JAK）を阻害するため、感染症に対する宿主免疫能に影響を及ぼす可能性がある。オルミエント錠の医薬品リスク管理計画書（RMP）の患者向け資料<sup>※</sup>には、「服用中に注意が必要な症状」として、咳、発熱、のどの痛み、寒気、痛みを伴う発疹（带状疱疹）などが挙げられている。  
※オルミエント錠の医薬品リスク管理計画書（RMP）の患者向け資料「オルミエントを服用されている方へ」（参照2024年11月20日）
- オルミエント錠のように服用により重篤な副作用が発現する可能性がある薬剤を交付する際は、製薬企業が作成している患者向け資料などを活用し、患者に副作用の症状などを具体的に説明したうえで、症状が現れた時は速やかに医師や薬剤師に相談するよう伝えておくことが重要である。さらに、交付後の患者フォローアップは、副作用の早期発見と早期対応を可能にし、重篤化の回避につながるため、積極的に取り組む必要がある。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。